

# スポーツ政策の公共性

ユニット名

スポーツ政策

ユニット代表者 体育系 教授 菊 幸一

◆ユニット構成員 総数7名(教員3名/ポストク4名/他機関0名)



キーワード スポーツ, 政策, 公共性, 国際比較

スポーツは現代社会において多様な意義と役割が期待されており、スポーツ政策は世界各国でグローバルかつローカルに展開される重要な政策課題の一つになっています。社会における人間の身体面からの幸福や発達を考える上で、スポーツのもつ公共性を明らかにすることや、急激に進展し複雑化するスポーツ政策の課題を研究することは非常に重要です。本リサーチユニットはこのようなスポーツ政策において、世界に先駆けてスポーツ政策研究の領域を創出し、リードする研究拠点の形成を目指しています。

## スポーツ政策の2つの方向性

これまでのスポーツ政策研究は、「体育」政策研究で、「行政施策」研究でしかありませんでした。政策システムに関する明確な概念規定(図1)を行うことなく、「体育」振興の政策的性格をそのまま公共政策の一環として受けとめ、目的、内容、方法を議論してきました。このスポーツ政策を公共性の観点から考えると、オリンピックにおいて活躍する選手等一部の競技力の高い選手をサポートするような施策が一つの例であるように、スポーツが国家政策の一部に組み込まれ高度化しており、その施策を通して国の方向性を決め、課題解決の一助となるような期待があることが読み取れます。一方、スポーツは元来余暇の一つの方法で人々が生活の中で楽しむべきものとして発展してきました。その余暇の一行動と共に健康増進、レジャーという生活環

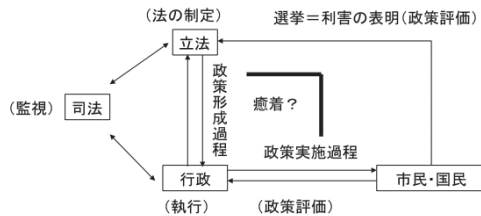


図1：政治と政策の枠組み

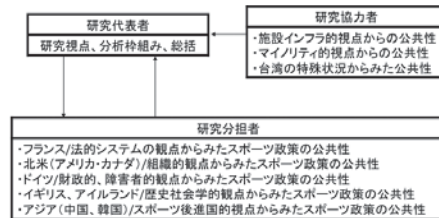


図2：研究組織体制と役割分担

境に入り込みスポーツは大衆化しています。この2つの方向性がある中で、国際比較研究等、スポーツ政策に関する基礎的研究を行っています(図2)。

## オープンな下からの「公共性」構築の可能性

「公共性」概念の研究については、近代スポーツを支える社会構造の特徴から近代社会における公共性とのアイソモルフ(異次元相同)的關係を考え、楽しさを追求するプレイの自由性と拘束性の概念による「スポーツからの公共性」構築の可能性からみた政策的意味を検討しています。スポーツのプレイ特性から公共性を論じることにより、スポーツ先進国と後進国との間で公共性の捉え方に関する相違がみられることが基本的なフレームから見えてきたところです。調査したヨーロッパ各国では内在的な関係や内在的価値(intrinsic value)それ自体を公共性の出発点として捉え、これに基づく道具的価値の「可能性」を期待しています。これはスポーツの自由性や自在性にゆだねている、という意味で、極めてopenな、下からの「公共性」概念で、社会的モデルとして機能していると考えられます(図3)。

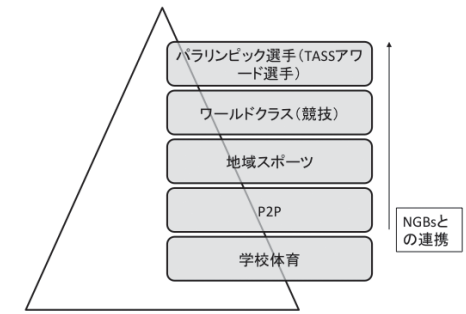


図3：EFDSのP2Pプログラムとバスケイモデル

## 社会への貢献・実績

- 「スポーツ政策論」(成文堂) 2011年
- 「基礎から学ぶスポーツリテラシー」(大修館書店) 2012年、26-29
- 「日本体育協会・日本パラリンピック委員会 100年史 part1」- スポーツで考える「環境と共生」の時代 - (公財)日本体育協会・(公財)日本オリンピック委員会編・発行、552-553, 556-557